学聖 谷秦山

Gakusei TaniZinzan

土佐山田町前山ぐいみ谷にある谷秦山墓所には、今年も市内外から多くの受験生やその家族が、合格祈願に訪れていました。没後300年を迎えた今もなお、多くの方から慕われている谷秦山先生（以下、『秦山』）。それは、貧困、病、いわれなき罪での謹慎処分など、さまざまな不遇の中で、ひたすら学問への研鑽を積み、向学心を持ち続けた姿勢に対し、多くの方が尊敬と共感を持つからに他なりません。

さて、皆さんは秦山について、どれほど知っているでしょうか。「はじめて名前を聞いた」という方から、「頭が良い人だったとは知っているけど詳しくは知らない」といった方もたくさんいるのではないでしょうか。今回は、そんな皆さんにぜひ読んでいただきたい、知るきっかけにしてほしい特集です。

秦山は、現在で言えば、文科系、理科系、自然科学系、薬学・医学系など、多岐にわたり学んでおり、今回、その全てを紹介することは適いませんが、できるだけ、現代の表現を使いながら、分かりやすく読みやすく作成しました。

それでは、香美市、高知県の宝であり、『学聖（※）』とまで呼ばれる秦山の、波乱万丈な生涯を振り返っていきましょう。

※学問の道で偉大な業績をあげた人

秦山邸跡にある碑文の東面には、秦山が土佐山田に移住してきた時（1700年）に書いた漢詩が刻まれています。

仲秋

満輪鏡野露花浮
三五寒光伴独幽
欺地卜居豈無意
嵬峯明月約千秋

（訳）
仲秋の満月に照らされた鏡野には、夜露が光って花のように美しく、十五夜の月の光は私に幽玄さを感じさせてくれる。此の地に住居を構えたのには理由があってのことである（鏡野が好きだから）。峯より昇った明るく清らかな月と共に、いつまでも今のように、心しずかに暮らしたいものだ。

この漢詩からは、秦山がいかに土佐山田の地を美しいと感じ、愛着を持っていたかをうかがうことができます。

後にも紹介しますが、秦山は『天文暦学』にも深く傾倒していました。実地観測を重視していたため、土佐山田の地でいつも夜空を見上げて観測していたようです。私たちが見上げる夜空を、300年前に同じ場所で、きっと秦山も見上げていたことでしょう。

谷秦山墓所から
撮影した星空の軌跡
露出10分、中央にはオリオン座